

3 ワークショップ参加者発表

【理想の遊び場の提案】

『つながりんピック公園』

武田英司、鈴木 創



1 テーマについて

グループ内の年齢が高かったので、昔どんな遊びをしていたかという話で盛り上がった。

若いかたもいたので、今の遊びと昔の遊びの違いについて話し合うことができた。

様々な年齢のかたがグループにいたので、異年齢でのコミュニケーションの大切さを感じ、題名にも「つながる」という言葉を入れようと話になり、「つながりんピック公園」となった。

2 南鴨宮富士見公園の改善点

(1) ワークショップにてプレイパークを経験し、富士見公園での改善点をみつけることができた。

(2) もっと日影があると良い。

(3) 夏場などに子どもたちが公園で遊ぶには日影がもっとあったら良い。

(4) 水場が一つしかないので、増やしてほしい。

(5) みんなが集まれる場所があるといい。

(スペースを作ることで、来園したかた同士でつながることができるかもしれない。)

(6) 雨でも遊べる場所があると良い。

(屋根が付いていて、雨でも遊べるところがあったら良い。)

3 理想の遊び場の提案

(1) 街に住んでいると、木が少ない。

(公園にたくさん木があった方が良い。)

(2) 公園に畑があると良い。

(花を育てたり、果実を育てたりできたら良いと思う。)

(3) だろんこ遊びコーナーを作りたい。

(プレイパークなどでも遊べるし、だろんこ遊びができる場所が欲しい。)

(4) カフェ・オープンスペースを作りたい。

(人が集まれる場所を作り、たくさんの人がコミュニケーションとれる場を作りたい。)

(5) 公園にじゃぶじゃぶ池があると良い。

(水の中に入って遊んだり、生き物がいてもいいと思う。)

理想の遊び場の提案(南鴨宮富士見公園)

つながりんピック公園



『ワクワクやしき』

戸田 由紀子、成田 恵子、川上 宗一郎



1 テーマについて

テーマは「自由」「回遊」、スペースを横ではなく、縦に広げるのは室内だから出てきた発想で、スペースを広げるだけではなく、回遊することで「ワクワク」できる場所になると思うので「ワクワクやしき」とした。

2 児童プラザラッコの改善点

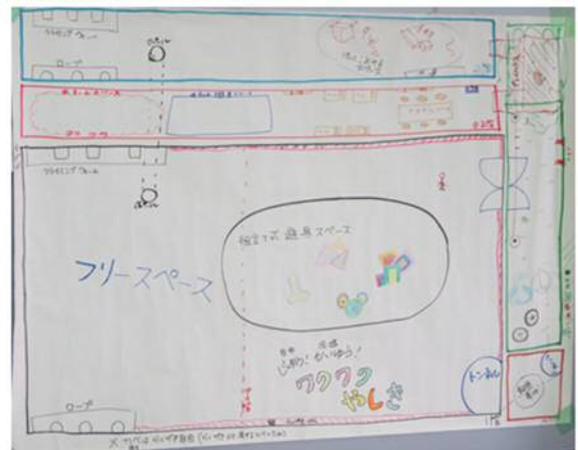
- (1) 問題点としては4つ「スペースが小さい」「走れまわれない」「遊具が少ない」「変化がない」
- (2) 改善点としては4つ「2階を作る」「中2階を作る」「外遊びスペースを作り隣接させる」「地下を作る」
- (3) 遊具等についての改善点としては、組み立てられる遊具を使えば、どこでも組み立てられるので、自由に遊べる。
- (4) 落書きスペースを作って欲しい。
- (5) ママたちが集まれるスペースを作って欲しい。
- (6) 段ボールや木材で何か作れたらおもしろい。
- (7) 地下を秘密基地にしたらどうだろう。
- (8) 外につながるツリーハウスを作りたい。

3 理想の遊び場の提案

- (1) スペースを広くすることで、走り回れる。
- (2) クライミングウォールを壁の所に移す。
- (3) 組立式遊具スペースを置く。
- (4) 中2階はお母さんがカフェできるスペースと、赤ちゃんスペースを作る。
- (5) 中2階からも外に出れるようにする。
- (6) 室外に噴水や自由に遊べるスペースを作る。
- (7) 2階には、クライミングウォールで登り、ロープで降りられるようにする。
- (8) 地下には、トンネルから入り、秘密基地になっている。
- (9) 壁は自由に落書きできる(消せる壁にする。)

理想の遊び場の提案(児童プラザラッコ)

ワクワクやしき



『小中学校が楽しめる富士見公園』（酒匂中学代表）

石川輝真、花形ありす、北田啓太、早野泉美
石塚史織、奥山遥、久保田空、有田早苗



1 テーマについて

小学生の時を思い出し、現在中学生の立場で小中学生が楽しめる公園をイメージした。

2 南鴨宮富士見公園の改善点

(1) トイレについて

- ア 洋式トイレにして欲しい。
- イ 汚いのでドアなど全面的にきれいにして欲しい。
- ウ 障がいを持った方なども使いづらいので、バリアフリーにして欲しい。
- エ 男子トイレの壁を高くして欲しい。

(2) 遊んでいて時間が分からないので、時計が欲しい。

(3) 遊具や建物について

- ア 芝を作って芝スキーなどをしたい。
- イ 砂浜みたいなものを作って欲しい。
- ウ ブランコやハンモックなどが欲しい。
- エ ゲームができるところが欲しい。
- オ バスケットやサッカーのゴールが欲しい。

理想の遊び場の提案(南鴨宮富士見公園)

小中学生が楽しめる富士見公園



3 理想の遊び場の提案

- (1) スポーツエリアとして、バスケットゴール、多目的コート、遊びの壁を作る。
- (2) 倉庫を設置し、その中にサッカーや野球の道具を入れておく。
- (3) 夜でも遊べるよう照明を作る。
- (4) 夏は、人口の池(ビオトープ)を作り、生き物とふれ合えるようにする。
- (5) タイヤやボールをつるしておいて、そこで遊べるようにする。
- (6) 木と木の間にハンモックをつなげておく。
- (7) 時間が分かるように時計を設置する。自由に食べれる果樹を植える。
- (8) 丘を高くして、トンネルを掘る。道は平らにしてスケートボードなどができるようにする。
- (9) トイレ・水飲み場はバリアフリーにする。
- (10) W i - F i の環境が整っていてゲームができるようにする。
- (11) 中学生が、公園でのイベントを企画し、公園の管理も行う。

【講評】

仙田 満 公益社団法人こども環境学会代表理事

「つながりんピック」はネーミングが良い。老若男女つながるための環境がよく考えられている。また、公園には、休憩するのに日影が重要になると思われが、そのために、提案のあったように木を植えたり水場が増やすことは良い提案である。

「ワクワクやしき」の提案のように、遊び場を立体的にするのは難しいが、東日本大震災後、福島では外遊びできない子どもたちのために、室内の遊具を立体的に配置したり室内用の砂場を作るなど、子どもたちが室内でも楽しく遊べる環境を工夫している事例がある。

カフェも、子どもの親ではなく、多くの市民の利用できるようにしたら良いと思う。

「小中学校が楽しめる富士見公園」の課題にもあるように、公園のトイレなどは、清潔でゆとりがある方が良いと思う。

中学生が自分たちで公園を管理するというのはおもしろい提案である。

加藤 憲一 小田原市長

公園、子育て空間は、苦情などの対応や人手不足もあり、管理しやすい安全なものになってしまっている。

中学生が公園に行かなくなったのは、忙しいのかもしれない。昔のように、公園で中学生や小学生が異年齢の集団を作って遊べると良いと思う。

小田原市の施策で、「身近な公園プロデュース事業」があり、地域の人たちと協働で公園の整備や管理でするものだが、中学生が公園を管理するという提案は興味深い。

「児童プラザラッコ」については物理的に地下室等を作るのは難しいが、室内と室外とで連続性ができるよう研究していきたい。

【ワークショップ参加者発表から気づいたこと・ヒント】

中学生の考えた理想の遊び場には、Wi-Fi環境等、電子機器（ゲームなど。）が使えることが必要とあるが、大人グループでは、電子機器（ゲームなど。）は必要ないと考えており、現在の子どもは外の公園でもゲームをしたがるのが分かり、外遊びの大切さとゲームをやりたいが子どものギャップを埋めることは難しいことだと思われる。

3つの提案に共通するのは、人とのコミュニケーションを大事にするために、「交流できる場」の必要性である。

中学生が公園の管理をやってみたいというのは大人の押し付けではなく、自分達で企画して実行したいという表れであり、子どもの成長の糧になると思われる。